

倫理 第15回「道家の思想／人生における芸術」

○今回のポイント

人間の生き様。あるがままの自分を受け入れ、自分の信念を貫け。

I. 道家の思想

・道家…道徳や道徳に基づく統治を自然に反する人為的なものと批判→自然との一体化が理想

(1)[① 老子]の思想

・大道廢れて仁義あり…道徳は社会の混乱に対し人間が作り出したもので自然に反する。

・自然が理想なのは、何で？

・[② 道] (タオ) …万物の根源。道は無。万物は無から生じて無に帰る。

宇宙は無から有が生じ、有から無に帰る永遠の運動

↓

このような宇宙の中では、人間が願い、思うことに絶対的なものは何一つ存在しない。そのため、人為的に働きかけるのをやめる。

↓

人間としての正しいあり方は、[③ 無為自然] (意識的には何もせず、万物をありのまま生み育てる無限の働き) であり、[④ 柔弱謙下] (自然に身をゆだね、他と争わず身を低くする水のような在り方) が人間の理想である。

↓

老子の国家の理想は？→[⑤ 小国寡民]…人間が自然のままに生活できる村落共同体。

(2) 荘子の思想

・[⑥ 万物斉同]…万物は本来、平等一体であること。おのずから調和している。

↓

人間の知恵や判断は全体のほんの一部に過ぎない。

↓

人間の知恵や判断は絶対ではない。 自己の利害や執着から不自由や苦しみが生じる

↓

ではどうすればいいの？

↓

[⑦ 心斉] (知恵や執着を捨てて心を空しくする) と [⑧ 坐忘] (己を忘れて自然の働きと一体化)

↓

[⑨ 逍遥遊] (何ものにもとらわれない絶対的自由の境地) に達する。

↓

その理想の人間が[⑩ 真人]。あくせくとした社会や政治から逃れ、名声も悪もなさず、悠々として天から与えられた寿命を全うする。

Cf. 胡蝶の夢

蝶の夢を見て目覚めたが、自分が夢で蝶になっていたのか、蝶が夢で自分になっているのかが分からない。どちらが自分でも蝶でもよく、与えられた現在を楽しんで生きればよい。万物斉同・逍遥遊を象徴したことば。

II. 人生における芸術

芸術も人生を価値づけ方向づける指針となる→芸術家について学ぶ。

1. 芸術と美

芸術作品の誕生…感動や想いが世界に向けて何らかのかたちにあらわされるときに生じる

↓

時代を超えて多くの人々に感動を与える

↓

[11] 美的コミュニケーション]…作品価値が「美」であり、テーマが結晶した作品を介して、受け手である他者とのコミュニケーションをめざすもの。

↓

芸術作品の鑑賞…**[12] 作品のテーマなどを理解し、解釈する**]

2. 苦しみを突きぬけて歓喜へ

[13] ベートーヴェン]…音楽のなかに自己の人格の完成をめざし、自由と人類の幸福を表現

→耳を悪くして絶望し自殺しかける→遺書における苦悩の告白により絶望から立ち上がる

†「お前を苦しめている不幸を頭のなかから追い払うためには、仕事に没頭するよりよい手段は見つからない」

→**[14] 自己の苦悩や運命と闘う強靱な意志**]

†「真に人間の名に値する人間を他から区別する本質的な特徴は、困難な逆境に耐え抜くことである。」

3. 不屈の人生

[15] ロダン]…近代彫刻の完成者

→国立の美術学校の受験に三度失敗+コンクールにだした作品がさんざんな非難

↓

But・・・**彫刻へのひたむきな熱情を忘れず、孤独であることを恐れず、世間に媚びることなく、自分の信念を貫く**

↓

†「真実であれ、若き人よ。…深く、恐ろしく、真実を語るものであれ。自分の感じることを表現することに決してためらうな。…おそらく最初君たちは了解されまい。けれどもひとりぼっちであることを恐れるな。友はやがて君たちのところに来る。」

↓

みずからの理想を追究することのなかに、生きることの喜びを見出す

4. 社会への問いかけ

[16] ピカソ]…キュビズムやシュール・レアリスムで新境地を開く。

→芸術家の真価は、作品を通して自分や自分の生きる社会・時代の真実を表現すること。

↓

[17] 「ゲルニカ」]…スペイン内戦における自国の反政府反乱軍とナチス・ドイツの暴挙を告発

↓

「 [18] 芸術家は政治的存在である 」